

「南京大學 中国語研修 参加報告書」

京都大学文学部3年江龍雅子

①人との関わりという面で、やはり短期でも国外に出ることは重要だと感じた。今まで先入観のみで見てきた「中国」という国に実際に足を運び、そこで暮らす人々と交流をすることによって、中国人がどのように生きているのか、考えているのかを見つめることが出来た。またそれを通じて、自分自身を見つめ直すことも出来たように思う。国外に出れば、自分が「日本人の典型例」としてみられるわけであるから、それなりの自覚を持って動くことによって、少しでも各国人の日本人に対する印象が良くなれば良いと思った。

②毎日がサバイバルである。食事をしに行っても、店から出ると使用済みの食器が山積みになっており「この食器で食事をしていたのか…」と戦慄することもしばしばであった。また、上海などの都市部に行くことがあれば、必ず貴重品の管理に気をつけることを勧めたい。すられてからでは遅いのだ。

③今回は長期生の中に混ざるプログラムと言うこともあり、自分からコミュニケーションを図ることがとても重要であった。クラスはアメリカ人、フランス人、トルクメニスタン人、イスラエル人など、各国から来た留学生でとても国際色豊かであり、その中で、第三者の目線を交えて日本や中国について語り合うことが出来るとも良い機会を持つことが出来た。

④日本では当たり前のように考えられている些細なこと（信号は守る、バイクで歩道を走らない、地下鉄では降りる人が優先である、等）が、中国では常識として通用せずにとっても驚いた。大学で先生に伺ってみても、「中国の教育レベルが上昇しない限り解決しようのない問題である」と言われるばかりで、教育による長期改善を図るしかないのだという。改めて教育の重要性に気づいた。今後教育に携わるようなことがあれば、一人でも多くの日本人に世界を見て欲しい、また一人でも多くの外国人に本当の日本を見て欲しいと伝えていきたいと思う。